平成三十年十月投句

転がりし若き木の実の秋の翳　勝利
木犀の香に振り向きぬ前の人
上流の暮らしも掛かり下り簗

町内の子供が配る赤い羽根　節子
瀬戸内の島に一日秋の雨
鷹の絵を風に揺らして鳥威

母の髪洗ってやりぬ秋日和　光子
十六夜や名残惜しみつ日々重ね
この先は五島の岬鷹渡る

研ぎし刃を翳す庖丁秋の晴れ　真理子
掃き寄せる紅葉夕べの色さらに
畑よりの煙は川へ鵙高音

水軍の島に露けし供養塔　由紀子
酒造場の高き煙突いわし雲
ひと雨に色を深めし実むらさき